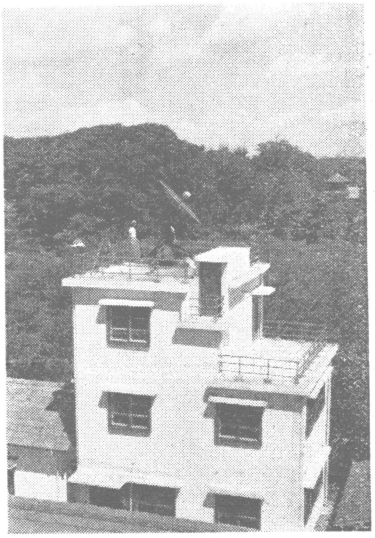
地方だより

…秋田測候所…

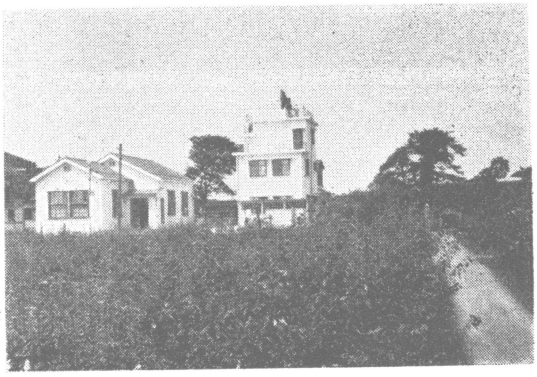
1955年8月1日突貫工事　によって完成された新高層観測塔において新鋭観測機GMD-1-Aにより本格的に観測が開始された．日本の気象界でルーチンに観測を始めたのが最初とあっては観測員の張り切り方は頼もしいものでした．機械がオートマチックになればその取扱いも機械的になり，精密に複雑化すれば機械の調子もデリケートな変化をする一般説通り初め故障も多くさんざん苦労させられました．しかし2カ月も過ぎたこの頃では大体軌道に乗ってきたようです．その成果として上層気流の平均高度が2万米以上迄観測されるようになり，今年の台風期には大いにその性能を発揮してくれました．しかしこのGMD-1-Aの性能を充分活かすため技術向上を目指して勉強せねばならぬことを痛感された．

本誌 Vol. 2，No. 4 で約束のローカルな写真をと物色したが適当なのがなく編集者にふさわしからざる記とおしかりを受けることを覚悟で少しは気象にも関係のありそうな秋田の風物を2つばかり記してみましょう．

その1　雪国の生活と言っても南国の方々が想像されるような暗い生活ばかりではない．県南の横手市は本県では多雪地帯の方で，この町では古くから「かまくら」と言われる行事で水神様に対するお祭として起ったものと言われ，子供達は路上または井戸のそばなどに積った雪をあつめ高さ5～6尺、巾も6尺位の釜形の雪室を造り中に水神様をまつる祭壇をもうけローソクに火を灯し供物など供え，子供達はその雪のかまくらの中で餅など



〔新観測塔〕



〔庁舎全景〕

焼いて食べながら語り合うのである．通行の大人たちもかまくらの水神様に餅やさい銭をあげて参拝する．こんな幻想的な行事の行われる冬の生活を御想像下さい．またその歴史は浅いが，旧の小正月に行われる雪の祭典は路上や広場に塩水にしめした雪を積み重ねいろろいろの雪の塑像が作られ，その美を競うのである．そこには芸術があり，ロダンもいる．これは長い雪の中の暗い生活から脱して明るい生活へと若い人々の情熱が生んだものであろう．

その2　田沢湖といえばその深さはわが国第1で最深425米その透明度もセーキ円板で39米の世界でも稀らしいすき透った水の湖であることは広く知られている，四周山々にかこまれ南東方近く駒カ岳（1,637m）が一段高くそびえ，湖面にその影を投げているのは如何にも女性的伝説を生んだ湖にふさわしい趣を感じさせる．この田沢湖と駒カ岳の間の生保内が古くから南部（岩手）へ通ずる宿場であったところで秋田民謡の代表の1つ『生保内節』はこの辺の情趣が多く含まれている．

〽吹けや生保内　東風（ダシ）　7日も　8日も
吹けば宝風　のを稲実る

これはその一節でその中の『東風（ダシ）』であるがこの風について調べられたのは唯1つだけで，あまり明確な結論は出ておらず，季節によって農業上有益にもなり，有害にもなる．すなわち春秋のダシは概して乾暖の風らしく降霜を防ぎ，また消雪を早める作用もある．さらに秋収獲期には稲の乾燥を促進させる事などから宝風と言われたようである．しかし地域が小範囲の局地性の現象であるので，今後機会を見てよく調べてみたいと思っている．

（小林久雄）

写真撮影　小林久雄